

府中町ふるさと歴史散策

〔第54回〕

文化財としての地名② 昭和初期の町内会名(15)市

昭和初期の頃の府中町内の集落は南北に通る県道府中・祇園線、県道府中・海田線より東側にほとんど分布していた。県道より西側では出張・市、浜田、茂陰、鹿籠などにわずかに集落が存在した。現在の鶴江・大須地域は水田が分布し、家屋は見られなかった。

昭和初期の頃の字名として15の町内会名(辻・中郷(砂原)・石井城・江本寺・御衣尾・五反田・山田・大崎・市・沖・尾首・八幡・浜田・茂陰・鹿籠)があった、これらは古い歴史に基づいた所が多く、現在も町内会名や地名として生き続けている。このシリーズ最後となる今回は「市」について考えていくこととする。

(15) 字市

「この地は白井氏の居城であった出張城の下にあたる地区である。昔から城の下に市場を形成することが多かった、この地も同じように当時の産物の集散市があったと考えられる。なお、国道(俗にいう旧山陽道)ができる以前は、この地が東西交通の駅場であったのではないかと考えるが、詳細については不明である。」(菅原守編『芸州府中荘誌』から筆者が口語訳したもの)

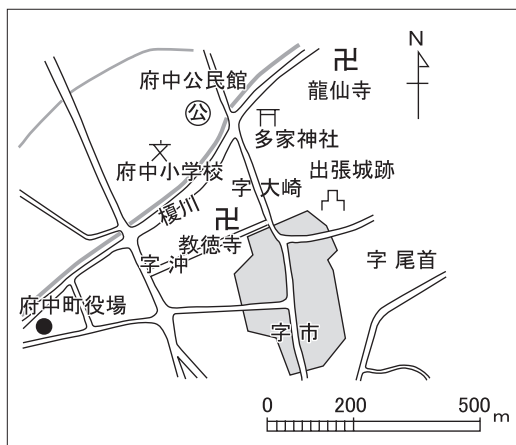
「字市」は県道15号府中・海田線に沿う宮の町二丁目と宮の町四丁目の西



写真② 出張城跡



写真① 現在の「字市」



地図「字市」(□の部分)とその周辺図

部の地域である。(写真①)旧「大道」に沿う地域で、「出張市」と呼ばれる長さ15間(約209m)ほどの近世の市(街)が形成されていたといわれている。前述のとおり、「市」という地名は出張城の城下に集まった市があったことから付いた名前であると推定されているが定かではない。

しかし、「市」が付く地名は府中町だけではなく、この近辺にも多数ある。「五日市」(広島市佐伯区)、「廿日市」(廿日市市)など市場が開催された日が地名になったものや、「古市」(広島市安佐南区)のように、中世の武田氏の拠点であった銀山城下ででき

た市場に起源を有すると思われる地名(『新修広島市史』から)というように府中町の「市」と起源が同じと考えられる地名もある。

出張城は城跡として現在の姿を見ることができ(写真②)。室町時代の中ごろ応永年間(1391年〜1428年)に安芸守護武田氏に従って下総国(現千葉県)から西下してきた白井加賀守胤時が初代城主となったといわれ、以後170年間にわたって府中を中心に領内を治めたと伝えられている。

なお、出張城は「字大崎」にある。府中町文化財保護審議会委員 熊野 俊浩

人の動き

4月1日現在(前月比)

人口	51,950(−27)
男	25,555(−19)
女	26,395(−8)
世帯	21,562(−60)
面積	10.45km ²



町の花
つばき

町の木
くすのき

お悔やみ

(敬称略)

氏名(年齢)	住所	死亡日
神保 重喜(75)	八幡二丁目	1/26
増山 隆信(84)	浜田三丁目	3/1
岩田 富子(84)	瀬戸ハイム三丁目	3/7
吉森 桂子(78)	石井城二丁目	3/11
中村 正徳(74)	鹿籠一丁目	3/12
辻 安子(76)	柳ヶ丘	3/14
原 禰世利(77)	桜ヶ丘	3/15
大田 一二(85)	宮の町三丁目	3/19
田淵 政行(83)	本町五丁目	3/21
山下 衛(65)	鹿籠一丁目	3/23
古村 汎(78)	城ヶ丘	3/26
高畑 守男(65)	八幡二丁目	3/28
水谷 よね(105)	大通一丁目	3/29

※この「お悔やみ」欄には、「町広報紙掲載申出書」の提出があった場合のみ掲載しています。

なお、「町広報紙掲載申出書」の受け付けは3月末日で終了しました。

問い合わせ

地域振興課広報公聴担当

☎286-3127

「広報ふちゅう」等のカセットテープ版・点字版のご案内

「広報ふちゅう」「議会だより」「ふれあい府中(社協だより)」のカセットテープ版・点字版を、希望者に無料で貸し出し・提供しています。

あなたのまわりの視覚に障害のある方に是非お知らせください。

申し込み・問い合わせ 府中町社会福祉協議会 ☎285-7278 FAX 287-3467

